

神奈川民医連・震災支援ニュース

NO.43 2011年4月19日 神奈川民医連事務局発行 電話 045-320-6371 kenren@kanamin.or.jp

現地スタッフに負担をかけず、自前で引き継ぐ環境を

薬剤師支援の報告 <汐田薬局・栄 拓也さん>

薬局の支援では入れ替わりで短期の支援者が入るため、新しい支援者が入るたびに、つばさ薬局のスタッフが教えることになります。また、支援者業務が限られるので、現地スタッフの業務が偏ります。処方箋枚数が落ち着いてきたので、逆に現地スタッフの負担が大きくなってしまうのではないかと心配です。

避難所では連日の民医連医療支援もあり、状況は落ち着いているように感じました。これからは調剤業務だけでなく、避難所にあるOTCをうまく使える環境にすることも必要だと思います。**今回**は、神奈川民医連の薬剤師が同じ日程に1名、重なる日程に3名いて引継ぎの条件は恵まれていました。それでも慣れない環境での(不便な)生活を強いられる不安もありました。次の支援者は間が空くため、引継ぎが心配です。神奈川民医連薬剤師による複数名での支援、それが無理であれば、重なる日程での支援体制を整えられれば、現地での不安も負担も少なくなると思います。



1日目 (4/12)	移動日。15時半ごろ坂総合病院に到着。坂総合病院2階の災害対策本部にてオリエンテーションを行い、夜の支援者会議に参加、その後薬局での顔合わせに参加して終了。
2日目 (4/13)	つばさ薬局多賀城店 にて支援。調剤・投薬のうち、調剤業務を指示されたので9時~18時半まで薬局で。業務内容はピッキング・水剤のみ。それ以外はつばさ薬局の職員が行う。処方箋枚数は450枚平常通り。
3日目 (4/14)	避難所回りに参加。午前中は 塩釜公民館 (避難者130人程度)に、医師2名、看護師6名、事務2名、薬剤師1名、その他4名で。薬は限定的で一般的な内服薬と塗り薬数種。ないものはOTCで代用か近隣の病院への診察を促す。処方日数も3日まで。診療ブースを設けたが、診察患者は0名。午後は 山王公民館 (避難者100人程度)。医師1名、看護師2名、薬剤師1名。医師・看護師と一緒に回診を行う。体調不良を訴えた患者は4名、そのうち3名に処方。水虫への対処はOTCで観察。
4日目	移動日のため、朝にバス乗り場に行って乗車し、そのまま東京駅まで移動。15時半ごろに東京駅着。帰宅。

★生活について 宿舎(坂総合クリニック)が余震の影響で停電。3階から上は(夜間)真っ暗な状況。水道も停電で備蓄のみ。食事は1日3回食堂が開かれる。主食は朝・夕はパン、昼にご飯、おかずは2種類程。薬局では昼にお弁当。神奈川民医連の物資があり補食は十分。シャワーも1人15分(予約制)使用可。つばさ薬局の金田社長の御好意で希望者は薬局に泊まることも可能。**★避難所について** 避難所は現時点で4カ所。大規模避難所(500人程)が2カ所。小規模避難所(100人程)が2カ所。小規模の避難所への支援は今後、週1~2回に縮小していく模様。避難所で生活している方々は1つの部屋に毛布を敷きつめて、仕切りもない状況で生活していて、衛生面、精神面が心配。同行した医師が「避難所に住んでいる方は診療行為や薬の処方による自己負担を心配しているのでは?」という問題点を挙げた。基本的に避難所にいる方々は負担なし。知られていないか?



松崎次長の震災支援日誌 4月19日(火)

昨日到着、一夜明けた本日の朝会の様子です(写真左)。



支援者数は102名。内訳は医師12名、看護師20名、技術16名、

事務54名です。のべ支援者は1万人を超え、義援金も2億円を超

える予定です。写真右は、打ち合わせ中の風間先生です。意気高く頑張っています。

※ 松崎次長は関東地協代表の**管理事務支援**として、4/23(土)まで滞在します。